

第6学年社会科（西南戦争を掘り学ぶ授業支援）指導案

実施日 平成30年10月30日
 実施校 鹿児島市立清水小学校
 支援者 埋蔵文化財センター
 藤島伸一郎・福菌慶明

1 目標

薩摩藩の外交政策を知ること、薩摩藩が明治維新の中心となった理由を理解することができる。また、校区の遺跡やその発掘成果を知ること、地元の歴史に興味を持ち、進んで学習しようという意欲を持つことができる。

2 実際

過程	主な学習活動	時間(分)	準備・留意点
つかむ	1 明治維新の「維新」のとは何か考える。 ・暮らしが変わること。 ・世の中が改まること。 2 明治維新で活躍し、政府の中心となった人物を振り返る。 ・維新の三傑（西郷・大久保・木戸） ・維新や明治政府で活躍した人は薩摩藩の人たちが多い。 3 学習課題を立てる。 なぜ鹿児島（薩摩藩）が、明治維新や明治政府の中心となったのだろうか。	5	・江戸時代と明治時代の生活を描いた絵を比べさせることで、人々の服装や建物のつくりなどの違いに気づかせる。 ・これまでの学習で、明治政府の中心となった人物を思い出させる。 ・三傑の中に、薩摩藩出身者が二人もいることを確認し、薩摩藩が明治維新や明治政府設立に大きな役割を果たしたことに気づかせる。
見通す	4 予想を話し合う。 ・西郷や大久保など優秀な人物が多くいたから。 ・強い武器を買うお金があったから。 ・兵力があったから。	5	・江戸幕府を倒して明治維新を成し遂げるためにはどんな条件が必要か、子どもたち同士で話し合わせて、考えを自由に発表させる。
調べる	5 江戸時代の薩摩藩の財政状況について調べる。 ・藩の借金は500万両もあった。 ・参勤交代や宝暦治水で大きな出費を強いられていた。 6 調所広郷の財政改革について調べる。 ・借金の250年払い。 ・砂糖の専売制。 ・琉球との密貿易 ・偽金作り →結果200万両の貯蓄ができる。 7 薩摩藩の近代化事業について調べる。 ・斉興・斉彬の集成館事業。 ・薩英戦争後の西洋技術の導入。	15	・子どもたちの予想に反して、薩摩藩の財政が厳しかったことを知らせ、その借金の原因について既習事項と関連付けて考えさせる。 ・調所広郷の行った改革によって、薩摩藩の財政状況が好転したことを理解させる。 ・島津斉興・斉彬が世界情勢をよく調べ、諸外国に対抗できる国づくりをめざしていたことを理解させる。
深める	8 薩摩藩の近代化に関わる校区周辺の遺跡の発掘成果を知る。 ・祇園之洲砲台…石垣や硬化面の検出。 ・天保山砲台…大砲を支えた砲座。 ・鹿児島紡績所跡…西洋式の紡績工場。 9 校区内にある西南戦争の遺跡を知る。「滝ノ上火薬製造所跡」 ・薩摩藩が築いた火薬製造所。 ・西南戦争では西郷軍が弾薬を製造。 ・明治政府の砲撃を受け爆破・炎上。 ・11月から発掘調査が始まる。	15	・これまでに埋蔵文化財センターが行った近代化に関する遺跡の発掘調査の写真や遺物、成果を紹介することで、薩摩の近代化を支えていたものが、自分たちの身近にあることを理解させる。 ・校区内にある滝ノ上火薬製造所跡を紹介することで、西南戦争に関する遺跡が近くにあることを理解させる。また、発掘調査が開始されることを知らせ、より関心を持たせるようにする。
まとめる	10 学習課題をまとめる。 財政改革を行うことで資金を蓄え、西洋の工業技術を導入することで薩摩藩自体の近代化を進めることができた。その結果、藩の勢力が強くなり、江戸幕府を倒す力を得ることができた。	5	・これまでに学習したことをもとに、薩摩藩が明治維新の中心となることができた理由をまとめる。 ・今後も自分たちの校区の史跡などに関心を持ち、調べてみたいという意欲を持たせる。